世界遺産登録 再チャレンジ

平泉の文化遺産は、平成23年の世界遺産登録を目指して、再チャレンジがスタートしました。このコーナーでは、登録に向けた取り組み状況についてお知らせしていきます。

第４回 比較研究事業が始動

世界遺産登録の大きな前提に比較研究があります。同じ種類の資産との詳細な比較研究により、「平泉」の独自性を証明し、そこから「顕著な普遍的価値」を見いだすことが目的です。

イコモスは、「先の推薦書の比較研究は、平泉の浄土庭園の独自性を主張しているけれど、それは単にほかの場所と異なっているというだけで、そこにどのような顕著な普遍的価値があるのか、説明が不十分である」と勧告しました。とりわけ、中国や韓国などの庭園との比較がきちんと検討されていないことが問題になりました。この点は、世界遺産委員会においても大きく取り上げられ、委員国からも比較研究の重要性が指摘されました。

毛越寺庭園と旧観自在王院庭園。平泉の浄土庭園群についてイコモスは「遺跡の真正性は疑う余地がない、庭園の復元作業は当時の造園技術と植物学的証拠の厳格な分析に裏打ちされてる」と高く評価している

平泉の寺院や浄土庭園の姿は、大陸から仏教とともに伝来したお寺や庭園の造り方と、日本独特の信仰などが融(とけ)け合って出来上がったものです。また、平泉文化は鎌倉のお寺など、他所にも大きな影響を与えています。イコモスも、そうした点をきちんと認めていて、「より詳しい資料の提示があれば、推薦資産の一部は、人類の価値の重要な交流を示すものとして評価できる」としています。世界遺産委員会は、イコモスの評価を踏まえて「中国・韓国の事例を含め、特に庭園のためのさらなる比較研究を提示すること」を再審査の第一条件にあげて決議されたのです。

登録再チャレンジに向け文化庁では、庭園に関する比較研究を重点的に進めるため、関係機関と共同し、平成21年の春に「平泉」再推薦に向けた研究集会を開催する予定です。また、中国や韓国の専門家からも情報提供や研究会への参加など、協力の体制が整いつつあります。この比較研究事業によって、国際的にも認められる「平泉」の顕著な普遍的価値が打ち出されることになります。

平泉を掘る

発掘最前線⑬

―花立Ⅰ遺跡第29次（窯跡）調査―

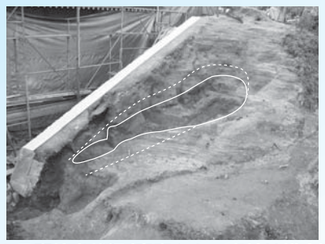
花立(はなだて)Ⅰ遺跡は、平泉駅の北西約700㍍の平泉字花立にあります。今回の調査では、平泉郷土館の東側にある通称花立山の南斜面を調査し、南北に連なるように２基の窯(かま)（２号窯・３号窯）が見つかりました。

北側の窯（２号窯）は、山の斜面をトンネル状に掘って作っており、規模は、長軸5.7㍍以上、幅２㍍、深さ40～60㌢以上、南側の窯（３号窯）は長軸２㍍以上、幅１㍍以上、深さ40㌢以上を測ります。２基の窯は、杉の木などで一部壊されているものの、黒く焼けた床面の傾斜や壁の立ち上がり、天井や壁の崩れた様子などを観察することができました。

今回の調査地点から北西へ約15㍍離れた地点（28次調査）では、12世紀前半とみられる陶器の窯（１号窯）が見つかっており、生焼けの鉢やわん、かめなどが25個分以上出土していますが、今回見つかった２基の窯から遺物は見つかりませんでした。しかし、埋まっていた土の中に炭が多く含まれており、この炭を科学分析にかけたところ、２号窯は昨年見つかった１号窯とほぼ同時期の遺構とみられることが分かりました。

今回見つかった窯については、熊野三社をはじめとした関係地権者の皆さんの御協力により、埋め戻しの上、現地にて保存されることになりました。

文化財センター　戸根貴之



２号窯検出状況（南東から。点線は推定）

力合わせて災害防ぐ 21区自主防災会発足

「平泉町第21区自主防災会」が12月７日、21区住民によって立ち上げられました。町内での同組織結成は12組織目となりました。

同日、21区ふれあいセンターで開かれた結成総会には、住民と消防関係者、合わせて50人余りが出席しました。会長に結成準備委員会委員長を務めた菊地良治さんを選出し、同準備委員会が作成した規約や活動計画、組織編成などを原案通り可決しました。

収穫の喜びを味わう 平泉小でもち花飾り

平泉小学校で12月19日、もち花飾りが行われ、全校児童をはじめＰＴＡ会員など約400人が学校田の米の豊作を祝い合いました。

４、５年生児童による農業体験発表に続き、もち花飾りともちつきを行い、児童は働く楽しさや収穫の喜びを改めて実感していました。

緑が丘中を訪問し再会喜ぶ グリーンツーリズム推進協

町グリーン・ツーリズム推進協議会の役員らが11月28日、農業体験学習を受け入れている神奈川県相模原市立緑が丘中学校を訪問しました。

役員は高校受験を控えた３年生に、毛越寺の合格祈願のお守りを贈呈。農業体験の思い出話に花を咲かせながら再会を喜び合いました。

事故のない町目指して 交安運動推進町民大会

平成20年度町交通安全運動推進町民大会が12月10日、役場会議室で開かれました。

町交通安全対策協議会の関係団体から約100人が参加。交通安全活動に尽力した行政区の表彰、吉田尚邦一関警察署長による交通安全についての講話などを通じて、交通安全意識を高め合いました。

被表彰行政区は次の通りです。

【行政区対抗交通安全コンクール表彰前期の部】▷１位＝13区▷２位＝８区▷３位＝21区【同後期の部】▷１位＝19区▷２位＝13区▷３位＝２区